

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		09 03 07	中期総合計画主要施策番号		2-03	担当課	部・課	農政部農業技術課		
事業名		種子対策事業					内線	3066		
							E-mail	nogi@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	主要農作物(水稲・麦・大豆・そば等)について、安全で安心な農作物生産の基本である優良な種子の計画的な生産と安定供給を行う。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・計画的な種子の生産・備蓄が必要であるが、需要に対応するための十分な種子を確保するための環境が厳しくなっている。 ・実需者の品種ニーズへの迅速な対応が求められているが、急激な変化への対応が困難である。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・種子生産者の高齢化や、温暖化・台風等の気象災害の発生 ・種子は原々種生産(1年)、原種生産(1年)、種子生産(1年)と配布できる種子の生産まで最低3年を要するため 【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・生産者及び関係団体・機関と連携した気象変動に対応できる生産技術習得及び計画的な備蓄の実施 ・実需者ニーズに対応した計画的な原種、種子生産のための需給調整の実施								
		事業内容	・原種ほ及び採種ほの設置による優良種子生産と供給、奨励品種決定のための試験及び調査の実施 ・(社)長野県原種センターが行う災害に備えた種子の備蓄並びに種子の生産指導及び需給調整への支援(補助率:【県】1/2以内、一部定額)							
			実施期間	553 ~		根拠法令等	主要農作物種子法、長野県食と農業農村振興計画			
	成果と達成状況	事業の目指す成果	達成度(期待どおり)の判定基準(H20)				達成状況		評価	
	・主要農作物種子の安定供給を図る。 ・優良種子の供給による米の一等米比率全国第1位の維持及び水稲・麦の種子更新率の向上を図る。	・需要量に対応した種子の生産量(1,559トン)を確保する。 ・米の一等米比率全国1位の維持及び種子更新率(H19: 水稲79%、麦85%、大豆39%)の向上を図ること。				・主要農作物種子の生産量 1,606トン(計画対比102.8%)が確保できた。 ・米の一等米比率全国1位が維持された種子更新率は水稲6%向上(85%)、麦は5%向上(90%)、大豆は8%向上(47%)した。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区分	単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要				
	最終予算額 (A)	千円	13,222	12,857	12,804	国庫・県単	県単			
	決算額 (B)	千円	13,222	12,396		実施方法	直接・補助			
	B(H21はA)のうち一般財源	千円	13,222	12,396	12,804	歳出節別内訳等	・需用費:1,460 ・補助金:9,760			
	概算人件費	人	1.30	1.30	1.30	(単位:千円)				
	概算事業費 (B(H21はA)+C)	千円	22,504	21,690	22,098					
事業実績	内容	単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績				
	主要農作物種子の生産	トン	1,513	1,606	1,575					
事業の課題	区分	判定・説明								
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	・全国での食品の産地偽装問題が報道され、異品種の混入への消費者の関心は高く、事業のニーズは高い。 ・主要農作物種子法に基づき、県は主要農作物の優良な種子生産に関する業務を行う義務がある。				
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり						
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり						
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり						
課題の総括	・ニーズに対応した期待どおりの成果が得られており、優良な種子の安定的な生産のための事業を継続的に実施していく必要がある。 ・需要に即した計画的な生産拡大、品種更新に向けた種子生産体制の強化策について、産地への働きかけの結果に基づき、さらに検討を進める。									